

法座活動に関する調査結果報告書

【調査対象：組長】

(2023年度実施)

浄土真宗本願寺派
布教線拡充検討部会（僧侶養成部＜布教使担当＞）

1. 「法座活動に関する調査の概要」

1) 調査目的と内容

目的：宗門総合振興計画【重点項目5.お寺にご縁のない方々と共に集える開かれたお寺づくり】の＜事業内容⑩＞において、特に「布教線の拡充を推進する」ため設置された布教線拡充検討部会のもと、これからの法座開催のあり方を検討する基礎資料を得ることを目的とする。

調査内容：①定例法座、月例法座の現状について
②これからの法座の在り方に関して
③常例線布教の認知度と活用について
④宗派支援制度の認知度と活用について

1. 「法座活動に関する調査の概要」

2) 調査対象及び方法

< 調査対象 > 522組 (2023年10月1日現在、組長に依頼)

< 調査方法 > 郵送法にて配布、回収は郵送、オンライン回答を併用 (QRコード)

※「調査票」及び「組内調査補助資料」(必要に応じて参考)を郵送

3) 調査基準日 2023(令和5)年10月1日

4) 調査回収数と回収率

(1) 返信数: 郵送回答192票、オンライン回答85票、合計277票 (無効票数0票)

有効票数: 277票 (分析対象の調査票)

(2) 回収率: 53.1% (内、オンライン回答30.7%)

5) 調査主体 浄土真宗本願寺派 布教線拡充検討部会 (僧侶養成部<布教使担当>)

6) 調査分析 舟橋和夫 (龍谷大学名誉教授)

2. 「調査結果の見方」について

- これからの法座開催のあり方を検討する基礎資料を得ることを目的に、新型コロナウイルス感染症 (以下、新型コロナ) 流行以降の定例法座、月例法座の実施寺院数、現在開催されている法座での工夫 (開催方法、実施時間、案内、内容) や新たな取り組み事例、また常例線布教 (定例法座、月例法座を複数寺院にて実施) の認知度・効果などを組長に伺いました。
- 集団としての特性を把握するために連区別に調査統計分析を実施。データの表現は数値とともに縦棒グラフで表現しています。
- 回答のNADKとは、未回答、知らない、など欠損値のことです。

調査結果

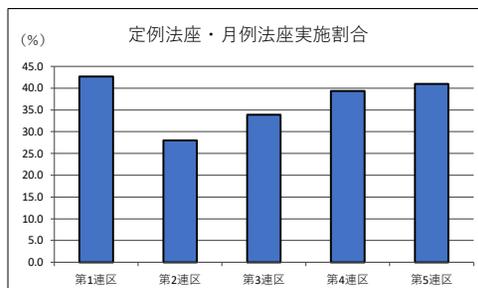
本調査の回収率

教区	発送数	回収数	回答率	オンライン回答率
北海道教区	16	8	50.0%	25%
東北教区	9	2	22.2%	0%
東京教区	24	11	45.8%	36%
長野教区	7	3	42.9%	33%
国府教区	6	2	33.3%	50%
新潟教区	7	4	57.1%	50%
第1連区	69	30	43.5%	33%
富山教区	14	3	21.4%	67%
高岡教区	13	7	53.8%	43%
石川教区	6	3	50.0%	33%
福井教区	15	8	53.3%	38%
岐阜教区	14	10	71.4%	10%
東海教区	11	8	72.7%	25%
第2連区	73	39	53.4%	31%
滋賀教区	21	14	66.7%	7%
京都教区	10	6	60.0%	17%
奈良教区	18	13	72.2%	23%
大阪教区	41	20	48.8%	50%
和歌山教区	14	11	78.6%	45%
兵庫教区	39	19	48.7%	26%
第3連区	143	83	58.0%	30%

教区	発送数	回収数	回答率	オンライン回答率
山陰教区	20	14	70.0%	29%
四州教区	21	10	47.6%	20%
備後教区	16	7	43.8%	43%
安芸教区	25	15	60.0%	27%
山口教区	33	18	54.5%	22%
第4連区	115	64	55.7%	27%
北豊教区	9	5	55.6%	0%
福岡教区	20	13	65.0%	46%
大分教区	18	10	55.6%	10%
佐賀教区	17	7	41.2%	29%
長崎教区	10	5	50.0%	60%
熊本教区	28	10	35.7%	30%
宮崎教区	9	5	55.6%	60%
鹿児島教区	11	6	54.5%	50%
沖縄県宗務特別区	0	0	0%	0%
第5連区	122	61	50.0%	34%
合計	522	277	53.1%	30.7%

Q1 連区別 定例法座・月例法座の実施寺院数

連区	実施寺院数		回答組寺院数
	N	(%)	
1	218	(42.7)	511
2	236	(28.0)	844
3	615	(33.9)	1,816
4	478	(39.3)	1,215
5	408	(41.0)	996
計	1,955	(36.3)	5,382

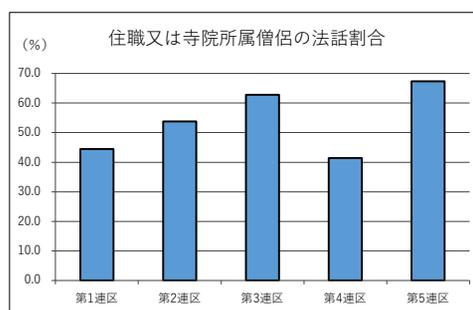


上記の表は、連区単位にみた定例法座・月例法座の実施寺院数を表したものである。その際、各連区の回答組の寺院数に対する定例法座・月例法座の実施寺院数および実施率(%)を表している。

高い実施率を示しているのは第1連区(42.7%)と第5連区(41.0%)であり、全般的にみれば東日本が低く、西日本が高い実施率を示している。

Q1_2 法座の講師を、主に住職または寺院に所属する僧侶が行う寺院数

連区	住職又は所属僧侶実施寺院数		法座実施寺院数 N
	N	(%)	
1	97	(44.5)	218
2	127	(53.8)	236
3	386	(62.8)	615
4	198	(41.4)	478
5	275	(67.4)	408
計	1,083	(55.4)	1,955

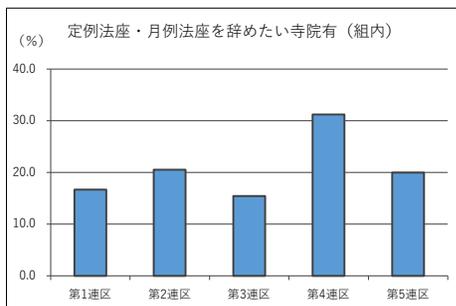


Q1_2の内、講師を住職もしくは所属僧侶が行っている寺院を尋ねたものである。

定例法座や月例法座の全国実施率36.3%のうち、約半数の55.4%が住職もしくは寺院所属の僧侶で担われている。第5連区(67.4%)および第3連区(62.8%)が高い率を示している。

Q2_1 組内で現在、定例法座、月例法座を辞めたいと考えている寺院の有無

連区	ある		ない		NADK		計	
	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)
1	5	(16.7)	23	(76.7)	2	(6.7)	30	(100.0)
2	8	(20.5)	30	(76.9)	1	(2.6)	39	(100.0)
3	13	(15.5)	67	(79.8)	4	(4.8)	84	(100.0)
4	20	(31.3)	41	(64.1)	3	(4.7)	64	(100.0)
5	12	(20.0)	45	(75.0)	3	(5.0)	60	(100.0)
計	58	(20.9)	206	(74.4)	13	(4.7)	277	(100.0)



組内の寺院にみる定例法座や月例法座を辞めたいと考えている寺院を有する組は、現在**20.9%の組**に及んでいる。辞めたいと考えている割合が高い組は、**第4連区の31.3%がトップ**であり、**第3連区が最も低い(15.5%)**。

Q2_2 定例法座・月例法座を辞めたいと考えている寺院数

連区	該当寺院数		実施寺院数
	N	(%)	
1	11	(5.0)	218
2	22	(9.3)	236
3	21	(3.4)	615
4	34	(7.1)	478
5	16	(3.9)	408
計	104	(5.3)	1,955

上表は組単位ではなく、寺院単位での回答数で表している。

第2連区の**9.3%**が最も多い(22ヶ寺)。続いて、第4連区の**7.1%**(34ヶ寺)である。全国的に見れば、**全体で5.3%**(104ヶ寺)である。

Q2_3 定例法座・月例法座を辞めたい理由 (全55件)

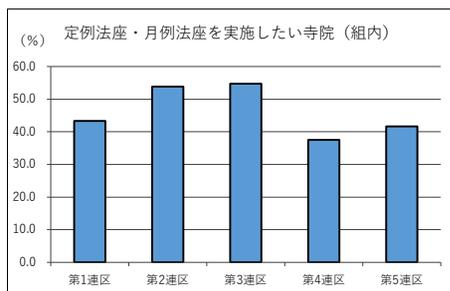
- 1) 参拝者の減少・固定化：31件
- 2) 門徒の状況変化（主に高齢化）：11件
- 3) 法座の経済的負担増：9件
- 4) 住職の体力的な問題（人手不足）：8件
- 5) 布教使の資質：5件

【意見の数値は、当該用語があればカウント】

圧倒的に多かった回答は「参拝者の減少」であった。記述回答のうち半数以上にみうけられた。連動する形で「門徒の高齢化」「若者がこない」など門徒の状況変化をあげる回答も多くみうけられた。その他「法座をすると赤字になる」など経済的理由をあげる回答や「寺院内の人手不足」「住職の高齢化」など寺院、寺族の体力を理由に挙げる回答も少なからずみうけられた

Q3_1 組内で現在、定例法座、月例法座の実施を考えている寺院の有無

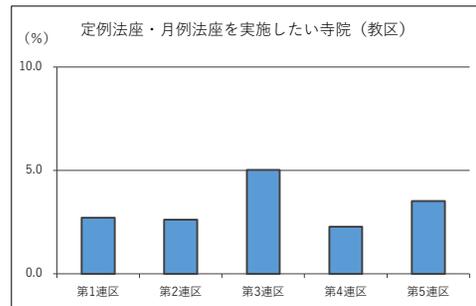
連区	考えている N (%)	考えていない N (%)	NADK N (%)	計 N (%)
1	13 (43.3)	16 (53.3)	1 (3.3)	30 (100.0)
2	21 (53.8)	17 (43.6)	1 (2.6)	39 (100.0)
3	46 (54.8)	35 (41.7)	3 (3.6)	84 (100.0)
4	24 (37.5)	39 (60.9)	1 (1.6)	64 (100.0)
5	25 (41.7)	32 (53.3)	3 (5.0)	60 (100.0)
計	129 (46.6)	139 (50.2)	9 (3.2)	277 (100.0)



定例法座・月例法座を実施したいと考えている寺院は、全体のほぼ半数の組(46.6%)において見られる。
 なかでも一番多いのは、第3連区(54.8%)。

Q3_2 Q3_1の寺院数（実施を考えている寺院）

連区	該当寺院数		回答組 寺院数 N
	N	(%)	
1	35	(6.8)	511
2	41	(4.9)	844
3	157	(8.6)	1,816
4	48	(4.0)	1,215
5	70	(7.0)	996
計	351	(6.5)	5,382



Q3_2の設問の回答を寺院数で見ると、第3連区が最も多く、157ヶ寺、8.6%を占めている。

Q3_3 定例法座・月例法座を実施したいが、実施にいたっていない理由、またはその解決策は？

- 1) **住職が兼職**のため土日のみの法務となり、常例法座に時間が割けないし、法務に関わる人員不足。さらに、住職・衆徒などの家族の健康状態や意識。：50件
- 2) 参拝者（門徒）の**高齢化により参拝者の減少**や夜の参拝者が見込めなくなりつつある。特に遠距離門徒のケア：28件
- 3) コロナの影響で再開苦慮。組織力の低下、固定化。人口流出が止まらない。：27件
- 4) 経済面で、**講師謝礼に苦慮**。資金不足、経費の不足、交通費の負担。経済的余裕がなくなる。：20件
- 5) 参拝者の高齢化（若者が来ない）。地域及び世話人の高齢化が進み、**再開が困難**。現在の恒例法座すら継続困難。：20件

【意見の数値は、当該用語があればカウント】

Q4 開催されている法座について、工夫が見られている事例

- 1) 若者には土日・昼間の時間帯、高齢者には夜座より昼座へ、
コロナ以降は時間短縮などを実行：55件
- 2) 花まつり・初参式・入門式・米寿のつどいなど他行事を法座と
抱き合わせて、新しいご縁を結ぶ：49件
- 3) SNSなどネットによる告知、電話やはがきによる告知も効果
があり、高齢者や若者など対象者を見据えた告知方法をとる
：45件
- 4) 教学の話は外部講師、親しみやすい話は住職にと役割分担する
：22件

【意見の数値は、当該用語があればカウント】

Q5-1 これからの法座開催にあたり、組内寺院で取り組みたい こと、または課題は？

- 1) 休止している法要、お斎などの再開（復活）が必要。コロナ以前の
状態に戻すには、相当のエネルギーが必要になる。：27件
- 2) 組の連携が必要。仏婦、仏壮、総代会など合同で多くの人が集まる
開催で行う：24件
- 3) 復活するにしても若い人がお参りできる時間帯（例：土日定例
開催）や告知（SNS、ホームページ）で実施したい：20件
- 4) 対象を意識した法話で実施したい（オンライン法座や、パワーポ
イントなど視聴覚教材の使用、門徒主体の法座）：21件

【意見の数値は、当該用語があればカウント】

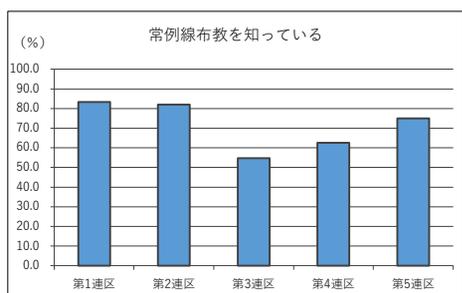
Q5-2 取り組み上の課題（これからの法座開催）

- 1) さまざまな困難の根本原因は、**過疎化、少子高齢化、財政難**である。：116件
- 2) 若者の仏教への無関心と**参拝者の減少**。経費の不足。：30件
- 3) 課題はいろいろとあろうが、僧侶住職の姿勢に負うところが大きい。：15件
- 4) お斎の重要性は認識されるものの、復活までの道のりが困難であることも、また指摘される。：12件

【意見の数値は、当該用語があればカウント】

Q6_1 常例線布教をご存知ですか

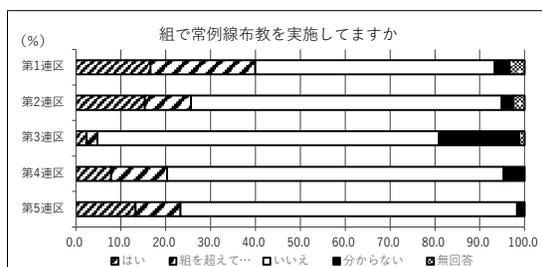
連 区	知っている	知らない	NADK	計
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)
1	25 (83.3)	5 (16.7)	0 (0.0)	30 (100.0)
2	32 (82.1)	6 (15.4)	1 (2.6)	39 (100.0)
3	46 (54.8)	38 (45.2)	0 (0.0)	84 (100.0)
4	40 (62.5)	23 (35.9)	1 (1.6)	64 (100.0)
5	45 (75.0)	15 (25.0)	0 (0.0)	60 (100.0)
計	188 (67.9)	87 (31.4)	2 (0.7)	277 (100.0)



常例線布教の認知度は全国的には**67.9%**である。
 最も高い認知度を示している連区は、**第1連区の83.3%**であり、最も低い認知度を示しているのは**第3連区の54.8%**である。

Q7_1 あなたの組で常例線布教を実施されていますか

連 区	はい	組を超えて 行っている	いいえ	NADK	計
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	
1	5 (16.7)	7 (23.3)	16 (53.3)	2 (6.6)	30 (100.0)
2	6 (15.4)	4 (10.3)	27 (69.2)	2 (5.2)	39 (100.0)
3	2 (2.4)	2 (2.4)	64 (76.2)	16 (19.1)	84 (100.0)
4	5 (7.8)	8 (12.5)	48 (75.0)	3 (4.7)	64 (100.0)
5	8 (13.3)	6 (10.0)	45 (75.0)	1 (1.7)	60 (100.0)
計	26 (9.4)	27 (9.7)	200 (72.2)	24 (8.7)	277 (100.0)

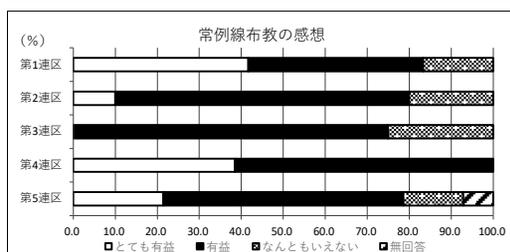


(注: 調査票に則れば「組を超えて行っている」数は「はい」数に内包されるはずであるが、第1連区と第4連区では、逆転している)

「常例線布教を実施」していると「組を超えて行っている」を合計してみると、**第3連区が4.8%と極めて低い** (4.8%)。他方、第1連区では二者合計で40.0%と半数近くを占めている。

Q7_2 実施されている常例線布教の感想

連 区	とても有益	有益	なんとも いえない	NADK	計
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	
1	5 (41.7)	5 (41.7)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
2	1 (10.0)	7 (70.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
3	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
4	5 (38.5)	8 (61.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)
5	3 (21.4)	8 (57.1)	2 (14.3)	1 (7.1)	14 (100.0)
計	14 (26.4)	31 (58.5)	7 (13.2)	1 (1.9)	53 (100.0)



(注: 調査票に則れば「組を超えて行っている」数は「はい」数に内包されるはずであるが、第1連区と第4連区では、逆転している)

「とても有益」と「有益」を合わせると、全国平均で、84.9%になり、評価は高い。

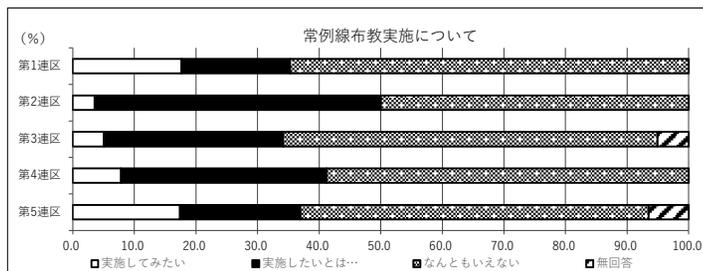
Q7_3 実施されている常例線布教の感想（有益・有益でない、何とも言えない）とその理由

- 1) 違った布教使が来られ、新鮮である。色々なご法話が聴聞できる。
- 2) お寺の負担が少ない。個人の力ではなかなかできないことなので、有益である。講師選定に困らない。
- 3) 新たな布教使との出会い。自教区や他教区の講師の法話を聴聞できるのが良い。
- 4) 参詣者は概ね楽しみにしている。門徒同士の交流会にもなっている。

【意見の数値は、当該用語があればカウント】

Q7_4 組内で常例線布教を実施してみたいですか

連 区	実施してみたい	実施したいとは思わない	なんとも 言えない	NADK	計
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	
1	3 (17.6)	3 (17.6)	11 (64.7)	0 (0.0)	17 (100.0)
2	1 (3.6)	13 (46.4)	14 (50.0)	0 (0.0)	28 (100.0)
3	4 (5.1)	23 (29.1)	48 (60.8)	4 (5.1)	79 (100.0)
4	4 (7.8)	17 (33.3)	30 (58.8)	0 (0.0)	51 (100.0)
5	8 (17.4)	9 (19.6)	26 (56.5)	3 (6.5)	46 (100.0)
計	20 (9.0)	65 (29.4)	129 (58.4)	7 (3.2)	221 (100.0)



「実施してみたい」と「実施したいとは思わない」の両者を比較すれば、「実施したいとは思わない」割合は、第1連区と第5連区ではほぼ同程度であるが、第2連区、第3連区と第4連区では「実施してみたい」と比較して、「実施したいとは思わない」寺院が圧倒的に多い。

Q7_5 上記の理由・・・<実施してみたい>

- 1) メリットが大きい。
(単独での開催が難しい。聴聞の機会を増やす)
- 2) 期待する。
(協力によって、新しい展開が期待できる)
- 3) 可能性はある。
(報恩講など法座に限ってなら調整が可能)

課題：組内の日程調整、講師選定が難しい。

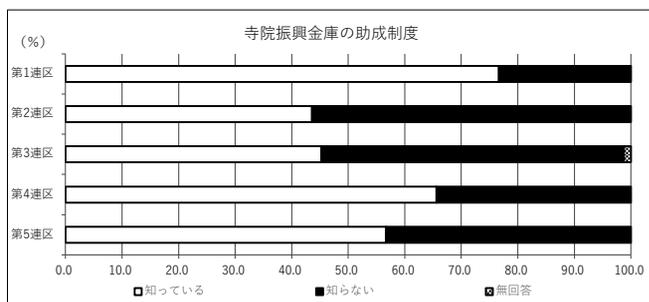
Q7_5 上記の理由・・・<実施したいとは思わない>

- 1) **各寺の自主性、自由性を尊重したい**
(各寺に諸事情あり。それを尊重したい)
- 2) **必要を感じない。**
(近所に布教使は多くおられる。寺院間の距離が近い)
- 3) 開催することが困難。
(法座を開いても人が来ない。日程を合わせるのが困難)
- 4) **忙しい。**
(住職が忙しい。余裕がない。住職は副業をしているから、時間的余裕がない)

課題：送られてくる講師の問題。

Q8 寺院振興金庫の助成制度「法座活動の支援」をご存じですか

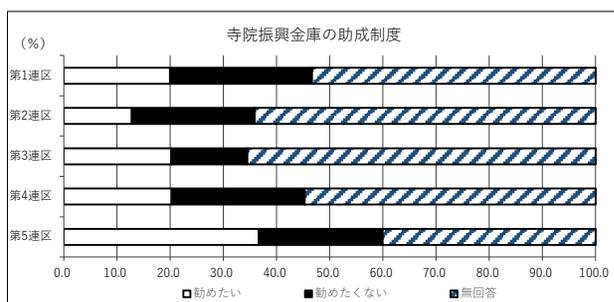
連区	知っている		知らない		NADK		計	
	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)
1	23	(76.7)	7	(23.3)	0	(0.0)	30	(100.0)
2	17	(43.6)	22	(56.4)	0	(0.0)	39	(100.0)
3	38	(45.2)	45	(53.6)	1	(1.2)	84	(100.0)
4	42	(65.6)	22	(34.4)	0	(0.0)	64	(100.0)
5	34	(56.7)	26	(43.3)	0	(0.0)	60	(100.0)
計	154	(55.6)	122	(44.0)	1	(0.4)	277	(100.0)



寺院振興金庫の助成制度「法座活動の支援」を知っている割合は、**全体の55.6%**を占めている。特に第1連区(76.7%)と第4連区(65.6%)で認知度が高い。

Q9 組内寺院に上記支援の活用を勧めたいか

連区	はい		いいえ		NADK		計	
	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)
1	6	(20.0)	8	(26.7)	16	(53.3)	30	(100.0)
2	5	(12.8)	9	(23.1)	25	(64.1)	39	(100.0)
3	17	(20.2)	12	(14.3)	55	(65.5)	84	(100.0)
4	13	(20.3)	16	(25.0)	35	(54.7)	64	(100.0)
5	22	(36.7)	14	(23.3)	24	(40.0)	60	(100.0)
計	63	(22.7)	59	(21.3)	155	(56.0)	277	(100.0)



前頁のように、助成制度を知っている人は半数を超えている(55.6%)ものの、その支援の活用を勧めたいかと問えば、「はい」と答えた人は**全体で22.7%**に過ぎない。知っているけれども、活用を勧めるほどではない程度といえよう。他方、「分からない」は56.0%と半数を超えている。

Q9_2 上記支援の助成制度（寺院振興金庫）を勧めたいかの回答理由

<はい>

- 1) **法要が勤められない寺院がある**ため、勧めてみたい。法座開催の補助になる（法座活動の一助になれば）
- 2) 有効な助成である。認知度を高める必要あり。
- 3) 経費の問題を抱えている寺院などもあると思う。
- 4) 法座活動がおろそかになっているので、助成制度を利用して増やす必要あり。
- 5) 住職不在の寺院への助成は厳しい。

Q9_2 上記支援の助成制度（寺院振興金庫）を勧めたいかの回答理由

<いいえ／分からない>

- 1) **必要性を感じないし、申請が面倒だ**。勧める必要もない（兼職寺院が多いため、関心がなく反応もない）
- 2) 法座活動が**困難と思われる寺院はない**。相談などがあった場合は対応する。しかし、要望があったことがない。
- 3) 制度が厳しい。また内容が不明瞭で、ハードルが高い。1法座3万円であっても解決しない。他のやり方の方が内容的に充実しているので、申し出る寺院が少ない（認知度が低い、条件が厳しい。金額が少ない）
- 4) 寺院活動の活性化には僧侶の伝道・布教が先決ではなく、各自のやる気と創意工夫が大切。

<最後に>

日本が人口減少社会に入り、定例法座の開催にその影響が幅広く表出している一方、「新型コロナ以前と同じ形態に戻したい」と願う寺院はかなり多いことがわかりました。この調査結果から“将来の望ましい姿”や、“目標とする具体的な数字や行動”を作成いただくなど、お寺の関係者で話し合ってくださいきっかけとなりましたら幸甚です。

最後となりましたが、本調査にご協力いただきました組長の皆様に感謝を申し上げます。